

兵庫の建築
Architecture of
HYOGO

国宝 浄土堂

浄土寺 国宝・国指定重要文化財・県指定有形文化財

創建年 1194年

所在地 兵庫県小野市浄谷町

単純な平面構成で一つの柱間が約六メートルもあり、内部空間は広大です。屋根は宝形造本瓦葺きで屋根を形作る線には、ほとんど反りがなく、直線的で堂内部は天井を張らず、貫・梁などの構造材をそのまま見せた、ダイナミックな構成になっており装飾を兼ねた化粧屋根裏で、大仏様建築の特色をもっている東大寺南大門と共に大仏様を伝える数少ない建物です。

浄土堂内にある、高さ約5.3メートルの名仏師快慶作の阿弥陀三尊立像は夕方になると西側の部戸から西日が射し、床に反射して仏像が赤く染まっていきます。浄土堂と向き合う配置の薬師堂は国指定の重要文化財で、焼失により室町時代に再建された建物ですが、和様・唐様などの建築技法が混在した折衷様式の建物です。また薬師堂の奥にある、開山堂も同時期に焼失し再建されています。

現在の建物は本瓦葺き・宝形造の簡素な建物で前側が庇となり、古風な形となっています。浄土寺の周りは自然に溢れており、特に初夏には浄土寺裏山にある20種類約3,000株のあじさいが散策道を鮮やかに彩ります。また四国八十八か所めぐりができる林道もあり、江戸時代に造られた祠を観る事が出来ます。四季によって様々な表情を見せる建物はもちろん彫刻・絵画・工芸品・石造物など数多くの貴重な文化財に触れる事で、神秘的な時間を過ごす事が出来る寺院だと思います。

文：澤尾 勝・梶本 泰彦（北播磨支部） 写真：歓喜院提供



国宝 阿弥陀三尊立像



県指定有形文化財 開山堂



国指定重要文化財 薬師堂



国指定重要文化財 八幡神社

目次

- P.1 兵庫の建築・浄土寺
- P.2 近畿建築士会協議会 青年部会 兵庫会議
手描きパースセミナー
- P.3 令和7年度 地域重要建造物見学会 まちあるき in 豊岡
- P.4 令和7年度 第1回見学会

メール配信と名簿のご案内

「集 tsudoï」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をしてください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員登録士名簿のページからお手続きください。



報告

開催場所 兵庫県中央労働センター201号室 近畿建築士会協議会青年部会兵庫会議

令和7年7月12日 開催

■近建青の合言葉は『キンキハヒツ！』

近畿2府4県の建築士会は、近畿ブロックとして近畿建築士会協議会を設立し、近畿としての活動を行っています。近畿建築士会協議会青年部会（近建青）は、近畿建築士会協議会に所属し、近畿2府4県の各建築士会青年委員会・部会から3名ずつ派遣される委員に加え、部会長、副部会長、相談役に構成されています。近建青は『キンキハヒツ！』を合言葉に、各単会の情報や問題意識を共有することで、同じ志を持った単会の垣根を超えた友情の輪を広げ、将来的に建築士会を盛り上げていく人間関係を構築し、建築に関わる社会貢献活動の推進および資質の向上、広報活動と認知度向上の推進等を行っています。

その活動を進めるうえで、持ち回り開催される全体会議が兵庫にて行われました。

正木会長をはじめ岡崎担当副会長、渡邊担当理事にも出席いただき今年度の事業について議論・報告、開催府県の単会の紹介、また所属委員の個別紹介等も行われました。



会議風景



会長挨拶



懇親会

懇親会は南京町の君悦飯店にて行われ、大円卓を囲ってそれぞれに建築について大いに語り尽くしたのではないのでしょうか。近建青は様々な活動を行っておりますので、ご理解ご協力をいただければ幸いです。

文：阪口 晴彦（青年委員長） 写真：近畿建築士会協議会・青年部会

報告

青年委員会 研修事業 手描きパースセミナー

令和7年6月28日 開催



集合写真

昨年に引き続き手描きパースセミナーを開催しました。

会場は「ひょうごフィールドバビリオン」の一環で、なかなか事業が開催できる建物ではない兵庫県立美術館となりました。万博会場関西パビリオンの兵庫県ゾーンとライブ中継だったり、ギャラリー内の一般利用者が気軽にのぞいてきたりとかかなりオープン要素のある環境でのセミナーとなりました。

講師も昨年に引き続き阪神支部に所属しています元青年委員長の阪本剛史氏にお願いしました。少人数とはなりましたが、親しみやすい雰囲気での開催となりました。



講師による説明



青年委員長挨拶



講評

会場の雰囲気も相まって芸術家チックな1日になったのではないのでしょうか。青年委員会は様々な活動を行っておりますので、ご参加いただければ幸いです。

■開催概要

- 日 時： 令和7年6月28日(土) 13:00～16:30
- 会 場： ひょうごEXPOTERMINAL(兵庫県立美術館3階ギャラリー)
- 講 師： &Architect一級建築士事務所 阪本 剛史 氏
- 参 加 費： 1,000円

文：阪口 晴彦（青年委員長） 写真：青年委員会

■「とよぶら」記録

地域重要建造物研修見学会 第3弾として、今年度は「豊岡」を訪れました。現地では、豊岡支部の林支部長、池口理事の協力で、案内をしていただきました。

●植村直己冒険館

JR 尼崎駅を出発し、まず訪れたのは、植村直己冒険館。豊岡市出身で世界的に有名な冒険家の植村直己さんの業績を表現する建物で、台地を切り裂くクレパスのような長い通路は 200m もあり、入り口から台地に潜り込むような感覚になりました。2021 年に新しくオープンした「どんぐり base」という体験型施設は、子どもの好奇心をくすぐる建物とアスレチックなどの屋外施設があり、テントで宿泊するプランがあるなど、ハードとソフトの工夫が見られました。

●とよぶら～豊岡の街並み

午後は今回のメインとなる、豊岡復興建築群を中心とした豊岡市街地の見学です。2024 年、これらの建築物の一部が、北但大震災からの復興を今に伝える「豊岡震災復興遺産」として、「景観の形成等に関する条例」に基づく「景観遺産」の登録がされました。復興期に都市の防火性能を高めるために RC 造で建築されたまちなみが残っており、希少性が高く、RC 造及び防火木造建築物の8件が登録されました。

【カバンストリート】

カバンのまちで有名ですが、その原点は柳行李（やなぎごおり）。そのモチーフを用いたファサードを見つけました。出石は城下町、城崎は温泉、豊岡は商業で発展したということもあり、看板建築（ファサードに特色がある）が多く見られるのも納得しました。

【高石医院／豊岡画廊】

旧豊岡貯蓄銀行で和洋折衷の装飾的な特徴を持ち、軒裏は漆喰塗りや銅板張り、隣家との間には袖うだつを設けた木造防火建築です。玄関横の装飾された柱の基壇部分は石で、上部は左官仕上げとなっていますが、見分けがわからないほど美しい仕上がりがりでした。隣の和風建築との境界は屋根の形状に合わせた立派なうだつがありました。

【11 軒連なる復興建築】

間口約 60m×奥行 6mに 11 軒が一体で建築された震災復興建築は、大開通りに面する部分を RC 造とすることで、都市の防火帯となっています。11 軒は間口幅や外観も異なり、各々個性的でした。

【オーベルジュ豊岡 1925】

渡邊節の設計で、銀行建築として建てられました。現在はホテルとなり、1 階ホールはオーベルジュで結婚式や音楽会場として使われています。タイル床、窓や窓枠、窓下オイルヒーターは当時のままで、天井には吊り照明用のフック、2 階には銀行として監視するためのベランダがあるなど、新築当時の空間を感じることができました。奥の階段は、段裏が 3 次元カーブの左官仕上げとなっていたり、キラキラ光る踏面には滑り止めとして黒曜石が散りばめられていたり、ディテールも楽しめました。

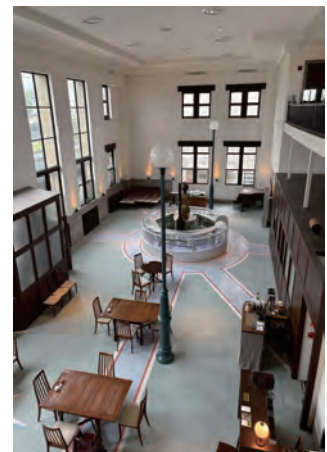
【ふれあい公設市場】

北但震災後の復興事業として建築され、木造の市場としては日本最古と言われています。木造トラスのアーケードは当時のままで、移住者がお店を出して、新しいデザインとも馴染み、内部は心地よい空間でした。近くには行商のためのあおぞら市場があり、川の上に建つことが分かる欄干もありました。現在も地元住民の方々が管理していて、朝からおばちゃんたちが野菜などを売っているとのこと。

見学の最後に旧豊岡市役所で集合写真を撮影し終了しました。

少雨のなかでの開催となりましたが、豊岡支部の方々の詳しく丁寧な案内で、充実したまち歩きとなりました。

文・写真：山本 和代（阪神支部） ※集合写真を除く



オーベルジュ豊岡 1925 1 階ホール



豊岡懐古堂（旧豊岡市役所）

- 開催日：令和7年6月14日（土） 9：00～18：00
- 参加人数：28名（うち一般参加5名）
- 協力：兵庫県建築士会 豊岡支部
- 共催：兵庫県建築士事務所協会 阪神支部

■福井県小浜市へ

5月18日早朝、本日の天気予報は曇りときどき雨。

一抹の不安の中集合場所の三木、小野、滝野経由でバスは一路、福井県小浜市に向かいました。

途中トイレ休憩をはさみ、午前10時すぎに小浜西組重要伝統的建造物群保存地区に到着し、それぞれ二班に分かれて、ボランティアガイドさんの案内で見学しました。

途中「蓬嶋楼」と言う、明治初期に建てられた料亭の内部も見学させて頂いて、当時の雰囲気も味わえました。

その後昼食と午後一番での蘇洞門遊覧の為若狭フィッシャーメンズ・ワーフに向かいましたが、ここで一抹の不安が的中し、午後からの遊覧が天候不良の為欠航との事。急遽予定を変更し明通寺へ向う事に。

明通寺は西暦806年に坂上田村麻呂によって創建された、本堂、三重塔と二つの国宝を持つ寺院です。本堂で住職の説明を聞き、また境内を散策しました。

しかしその後も船の欠航は解除にならず、若狭塗箸専門店「せいわ」で箸作り体験と製作工程説明を受ける事に。それでも参加者はそれぞれ世界で一つしかないマイ箸の製作を楽しみました。



福井県小浜西組重要伝統的建造物群保存地区



明通寺本堂（国宝）



明通寺三重塔（国宝）・集合写真

最後に道の駅「若狭おばま」でお土産等、買物をして帰路に着きました。今回は北播磨支部以外からの4名の参加があり、楽しく充実した時を過ごせましたが、船での遊覧は知床での遭難事故以後、就航が厳しくなり、計画の中でのリスクがある事も学びました。

■開催概要

- 日 時 : 令和7年5月18日(日)
- 見学行程 : 福井県小浜西組重要伝統的建造物群保存地区 ⇒ 蘇洞門遊覧(欠航中止) ⇒ 明通寺 ⇒ 若狭塗箸専門店「せいわ」 ⇒ 道の駅「若狭おばま」
- 参加費 : 建築士会員 4,000円 非会員 5,000円 子供(小学生以下) 2,000円
- 参加者 : 37名
- 主催 : 北播磨支部

文・写真：梶本 泰彦（北播磨支部）